

復興への提言

大震災から2カ月

▼4▲

ならない。

食料生産分野は、国

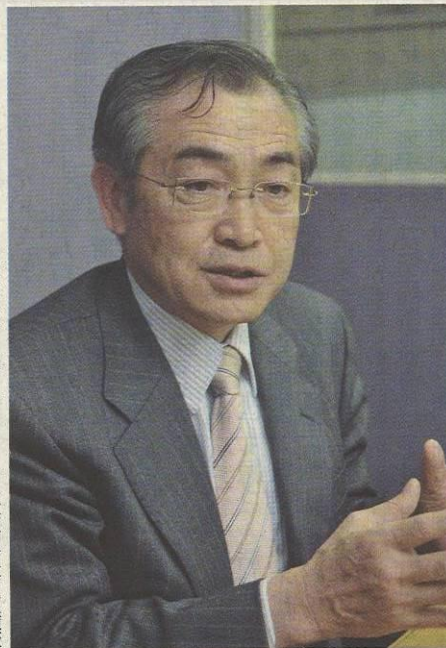
これまで八戸地域を内市場の少子高齢化が支えてきたのは水産進んでおり、東アジア業、素材型製造業、建や中国、ロシア、イン設業の3本柱だった。ドなど内需が拡大してが、外部の環境変化をいる市場がターゲット的確に見極めながら、になる。打ち勝つため新しい成長産業に注目には世界に通用する安全、安心が必要。先を

例えば、少子高齢化 見据えたグローバルなや環境、エネルギー、視点で、対応できる商観光、農業、食料など 品開発や市場開拓などに幅広い可能性がに努めてほしい。 電気自動車を含む 観光分野では、交流次世代自動車産業や航人口の拡大に向け、全空機産業、医療機器産業なども有望だ。地域特有の資源を活用したイノベーション(技術革新)を進めなければ

国規模の大会や集会を 開催し、新幹線を利用

成長産業に注目するり、社会的使命を積極

たかはし・としゆき 八戸信用金庫に入庫し、理事・地区営業本部長、はちしん地域経済研究所長などを歴任。2009年4月から現職。東経連ビジネスセンターのコーディネーターも務める。立教大卒。64歳。



高橋 俊行氏 八戸大学・八戸短期大学総合研究所副所長

成長産業に目を向けよ

機械金属関係では、3県で被災し受注、生産できないという企業に対し、不足している技術や施設機能を貸すことができる。青森県南の八戸市や十和田市、三沢市、五戸町などに集積している企業も大切だ。今後、行政の技術を生かせる機会でもあり、復興支援に回るため

たかはし・としゆき 八戸信用金庫に入庫し、理事・地区営業本部長、はちしん地域経済研究所長などを歴任。2009年4月から現職。東経連ビジネスセンターのコーディネーターも務める。立教大卒。64歳。

国規模の大会や集会を 開催し、新幹線を利用 ともに、八戸地域は 的に果たさなければな 産、農業、畜産業の各 分野で大きな役割を担 うことができる。 災3県の復興支援に回 食料供給基地としての

県や八戸市などが策 定する復興計画は、危 ないが、何もしないま ま衰退するよりはまし べきだ。単なる復旧で した。